

全体会午後の部Ⅱ

司会者 それではただ今より、全体会午後の部Ⅱを行いたいと思います。午後の部Ⅱの司会を担当させていただきます、板野中学校2年のmです。よろしくお願いします。まずは後半1本目の意見発表です。板野中学校2年米田涼花さんが欠席のため、板野中学校1年ayさんが代読をしてくださいます。「後悔」です。よろしくお願いします。

「後悔」

板野中学校 米田 涼花

私に、弟はいません。いえ、「いなくなってしまった」のです。その時から一年くらいの間、人の命を否定する言葉を耳にすると、なんとも言えない感情に駆られるのです。

学校でも、時々、言い争いをしている光景を目にします。その会話の中に必ずと言っていいほど入っている言葉が「死ぬ」。こんな言葉が会話の中、言い争いの中からよく聞こえてくるなんて、おかしいと思いませんか。彼らは遊びのつもりでしょう。でも、「それが本当になれば…?」「口にしてしまった言葉がもとで、現実起こってしまったら…?」みんな、そんなことを考えて口にしてしているのでしょうか。それが本当に起こってしまったらと考えると、悔やんでも悔やみきれません。

人は大切な人をなくしてしまってから、その人がどれほど「大切な人」だったか気づくのです。あなたの友達は、きっとあなたの存在を「大切な人」と想ってくれてると想います。でもその友達に自分の存在を否定されるようなことを言われたらどうでしょう。たとえケンカ中だったとしても、遊びの中だとしてもつらいと思いませんか。誰も人という生き物の感情に勝つことはできません。そして、最後に悲しむのは、「自分」です。

みなさんは、「後悔、先に立たず」という言

葉を聞いたことがありますか。私が経験したこと、感じたことはまさにこれなんです。後から気づいても遅いのです。あの時、あの場所に居れば少しは変わっていたかもしれない。自分はなんであんなことを言ってしまったのだろう。こんなつらい後悔、ほかにありません。



あなたは、人を傷つけている自分は好きですか。強がって嫌いじゃないという人はいませんか。一人に対して大勢で、人の容姿や存在などで、傷つけていませんか。私は、ケンカなどお互いに言いたいことを言い合うのは、悪いことではないと思います。でも、みんなケンカの時に言ってしまいますよね、相手を傷つける言葉。後で悔やみませんか。言い過ぎたとか、あんな事、思ってもなかったのに…と。その時、後悔してすぐに素直に気持ちを相手に伝えられなくてもいいんです。素直になれる時に相手に気持ちを伝えてあげてください。あなたがどれだけその人の存在を必要としているか。

私は、人権を無視する人が数が減っていくより、人権を大切にする人が無視する人と共に話し合い、語り合いながら、考え、学び、人権を無視してきた人たちが自らの意志で、「人権を無視する人」から「大切な人」に変わって、人権を大切にする人の数がどんどん多くなり、自然と人権問題がなくなっていく方が、よりスッキリとした差別や偏見のなくなりかただと思います。

弟がいなくなったの一年ぐらいの月日が経

ち、あんなに嫌がっていた、「死」という言葉を使つての相手を否定する言葉が、私の口から再び出てしまうようになりました。腹が立った時、遊びでも…。また後悔するのはイヤです。それなのに、私はそれをいつの間にか考えることができなくなってしまいました。もっと命を大切にしなければいけない。父と母から授かった命を否定してはいけない。ダメにしてはいけないと。

私には夢があります。私は、将来人権と関わる職、たとえば、心理カウンセラーなど人権に関わる仕事に就きたいと思っています。必ず就けるとは限りませんが、私はどの職に就いても、人権問題に自ら進んで関わり合い、人が幸せに暮らせ、人と人で悲しみを生まないような世界を、「ヒト」が人として幸せに生きる権利が無視されることのない世界を少しずつでも築き上げていきたいと思っています。

もし、傷つけられた仲の良い友人がいるのなら、もし、傷つけられているのを見かけたのなら、その場で止められなくてもいいと思います。でも、その出来事に目を背けるのではなく、そっと隣で背中をさすってあげられれば、少しは違ってくることもあるんじゃないでしょうか。

私は、これからの人生を歩んでいく中で、父と母から授かったこの命を大切に生きていきます。

司会者 ありがとうございます。どうぞ元の席に戻ってください。続いて、後半2本目の意見発表です。よろしくお願いします。

「いじめのない学校に」

大麻中学校

私のクラスには、一人でいる子はいません。だから、いじめなどないと思っていました。でも、「一人の子がいないから、いじめがない」といった考えは、間違っていました。

ある日の放課後、女子全員で、運動会のリレーの練習をしていた時のことです。私のクラスは、全員そろい、練習もとても順調に進んでいました。そして、他のクラスと競争することになりました。リレーをするのだけれど、そのクラスには、けがをして、教室で休んでいる子がいるので、人数が足りないということを伝えに来てくれました。すると、私のクラスの2人の女の子が、



「私、その子ほんま嫌い。何でそんな理由で休むかわからんわ。」

「それよなあ。ほんま、ありえんなあ。休みたいだけとちゃうん。」

と、いった会話が聞こえてきました。その時、まわりにいた私たちは、苦笑いをしただけでした。後から考えてみると、なぜ、みんな、その発言が間違っているとわかっていながら、それを2人に伝えることができなかつたのでしょうか。そのとき、私は、笑いでごまかすことが、言った人達と同じようにその子を傷つけていたことに気づいていませんでした。しかし、このままではいけないと思い、練習中にあったことを先生に相談しました。悪口を言った子も言われた子も理解し合え、運動会は楽しくできました。

でも、大事なことは、やはりその場で間違っていることを注意できることだと思いました。誰にも悲しい思いをさせてはいけません。悪口を言ってしまった友達にも、だめだと言うことをわかってもらわなければなりません。私は、注意しようと思えば言えたはず

なのに、自分のこととして考えることができなくて、言葉が出ませんでした。それでは、だめです。このようなことが、いじめにつながっていきます。

私は、今後このようなことがあったら、意識して注意し、行動に移していきます。また、一人では不安なときがあります。その時は、まわりの友達に相談して、注意できる仲間を作ろうと思います。そして、本当にいじめや悪口のない学校にしていきたいです。

司会者 ありがとうございます。どうぞ元の席に戻ってください。続いて、後半3本目の意見発表です。藍住中学校2年、高田智華さん、「私の友達」です。よろしくをお願いします。

「私の友達」

藍住中学校 高田 智華

私には、とっても仲良しの大親友がいます。その子と仲良くなったのは、中学1年生の時でした。私はクラスに小学生の時に仲の良かった子が全然いなくて、ずっと一人でいました。そんなときに声をかけてくれたのが、彼女でした。私は、小学生の時にたまに彼女と会話するくらいだったので、話しかけられた時は少し驚きました。最初の方は、なかなか会話が続きませんでした。だけど、そんな私に彼女は、いつも笑顔で話しかけてくれました。

そして、5月頃、遠足の班決めがありました。私は心の中で「どうしよう」と思いました。けれど、そんな不安はすぐにどこかへ飛んでいきました。彼女が「一緒に班になろう」とさそってくれたからです。私はとても嬉しくて、笑顔で「うん」とうなずきました。それから私は、自分から積極的に彼女に話しかけるようになりました。彼女はいつも私の話に「うん、うん」とうなずきながら楽しそうに聞いてくれました。私も彼女と話している

時、楽しくてたまりませんでした。いつも相談にのってくれて、うれしいことがあったときは一緒に喜んでくれました。

宿泊訓練でのスタントのダンスの振り付けを決める時も、合唱コンクールで歌う歌詞決めの時も、二人で一生懸命考えました。案が出なくてなかなか作業が進まないこともありましたが、二人で休み時間に、クラスみんなに聞いたりして、スタントも合唱コンクールも賞を取ることができました。



そんな私たちが一番輝いていたのは、学年全体で取り組んでいる語り合いの人権学習の時だと思います。私たちは語り合いの人権学習がある時よく発表します。その時、私はとても緊張してしまいます。私はたくさんの人の前で発表すると声が震えてしまいます。そんなとき、彼女は優しいまなざしで、こちらを見て、「だいじょうぶ、だいじょうぶ」と言ってくれます。私はそのおかげでいつも発表できています。そして彼女は、私が発表したことに涙を流してくれました。私はこの経験から改めて、語り合いの人権学習や友達の大切さを感じました。だから、これからも語り合いの人権学習がある時は、お互いに緊張をほぐし合っていきたいと思います。

また、2年生の6月に行った修学旅行は、たくさんのことを学びました。まず平和についての学習です。ひめゆり平和祈念資料館では、私たちと同じぐらいの女学生が、真っ暗なガマの中で看護活動にあたったこと、次から次へと女学生が亡くなっていく悲惨な事実

を目の当たりにしました。また、今年八十一歳になる玉木利枝子さんからは、目の前で大切な家族が亡くなっていった沖縄戦の残酷さを学びました。私は、玉木さんの話を聞いていると、いろんな人の顔が浮かんできました。私は家族や友達が亡くなっていくと思うと、怖くてたまりませんでした。そして、家族や友達のいることのありがたさが伝わってきました。

最終日に行った国際通りでは、最高の思い出ができました。クラスが離れ一緒に行動できないと思っていた友達と、行動することができました。おそろいの物をたくさん買って、おみやげをお互いに選び合いました。彼女とつくった思い出は一生の宝物となりました。

2年生になって、私は彼女とクラスが分かれたことで、最初は今のクラスになかなか出来なくて少し不安だったけど、今は仲のよい子たちもできて楽しいです。しかし、彼女はクラスになかなかじめなくて不安がっていました。私はいつも励ましてくれる彼女に、今度は私の番だと思い、励まし続けました。最初の頃は無理をして笑顔をつくっている感じがしましたが、最近は少しずつ、本当に笑ってくれるようになりました。そうしてしばらくたった日に、彼女は「ありがとう」と言ってきました。私はうれしすぎて笑顔で笑い返すことしかできませんでした。それから彼女の笑顔は段々と増えていきました。心から信頼し合える彼女、2年生のクラスで楽しく生活していける友達、どちらも私にとってかけがえのない大切な存在です。

私はときどき「友達ってなんだろう」と思うことがあります。一緒にいること、何でも相談し合えること、人それぞれに考えがあると思います。私が思う友達は、お互いに支え合うことだと思います。友達が悩んでいる時は、元気になるまでそばにいてあげる、楽しいことがあった時は二人で喜び合う。そうすることが、私の思う友達です。私はこれから

も彼女という友達をずっとずっと大切にしていきたいです。そして、多くの人と、豊かな人間関係を築き、差別やいじめのない社会を創造していく人になっていきたいです。

司会者 ありがとうございます。どうぞ元の席に戻ってください。それではこれから、意見発表を通しての討議にうつりたいと思います。発表についての感想や意見交換、参会者のみなさんの思いを語っていただければと思います。また、前半で発表しきれてない人や、付け加えるような内容のある人は、これが最後のチャンスとなりますので、ぜひ発表してください。なお記録の関係上、発表者は学校名、学年、名前を言ってから発表してください。それではよろしくお願いします。

名和中学校 3年 a i ボクは、米田さんの話を聞いて、ボクは友達に悪口を言ってしまって後悔をしたことがあるので、後悔しないよう言葉に気をつけて発言をしようと思いました。

名和中学校 2年 a j 人と話すときは言っていていいことと悪いことを考えて話そうと思います。

板野中学校 1年 l ボクも米田涼花さんの「後悔」という作文を聞いて、友達と暴力ではないけど、口げんかをしたときは、だいたい「あほ、ぼけ、しね」の言葉が出てきます。それはやっぱり「しね」という言葉が本当に起こったら相手の家族も悲しいし、それが本当に起こったら、いじめの対象になるから、これからは人に言う一言一言を、「しね」とか「ぼけ」とかではなくて、けんかしたときは、「やめよう」とかいう言葉を使って、やめたいです。

板野中学校 1年 c 「私の友達」の高田智

華さんの作文を聞いて、ボクも中学校入ったときに仲のよい友達が2,3人しかいなくて、違う学校の子と話すときに全然緊張して話せなかったです。でも他の学校の子から敬語でなくていいよって言われて、だんだんほっとして、今でもちょっと敬語が入るんですけど、最近はずっと仲いい子がどんどん増えていってよかったです。



上板中学校 2年 k 話したいことが2つあります。1つは、「いじめがない学校」についてです。私は、中国にいた頃もこれと似てる話がありました。私のクラスのある女子がよく体育の授業で「お腹が痛いので休みたい」って言って先生が許可するので、それでいつも私は、他の友達と一緒に「えー、あの子何？毎回毎回休んでるなあ。本当にお腹痛いの？ただ休みたいだけじゃないかな。」って友達と話したことがありました。でも今この話を聞いて、よく考えたら、「あーあの頃は悪かったなあ」と思いました。

もう一つの話は、「私の友達」についてです。作文の中に出たのは、「友達って何だろう」ってあったけど、私の思う友達は、私にとっては一応楽しく話せて本当に心から笑える相手なら、とっつもうれしいかな。それが本当の友達かなと思います。

国府中学校 3年 y 米田さんの「後悔」の作文で、私にも小学校6年生の弟がいるんですけど、毎日けんかばかりしてすごい苦手

で。特別支援学級に小学校で入っているんですけど、ほれやから嫌いな訳ではないんですけど。めっちゃわがままやし、ときどきわがまま過ぎて、「おらんくなってまえばいいのに」とか思うこともあるんですけど。米田さんが作文の中に「後悔先に立たず」っていう言葉が出てきたんですけど、私の言ったように、ほんまにいなくなってしまうたら家族みんな嫌な気持ちになって家族の雰囲気も暗くなるし、ほんまにおらんようになつたら、「私はほんまに好きだったんかもしれんなあ」って思うかもしれんけん、もうちょっと弟を大事にしてあげなあかんと思いました。



応神中学校 3年 e 米田涼花さんの「後悔」っていう作文を聞いて、私のクラスにいじめみたいなことがあるんですよ。ある男の子が「あいつの触ったものに触りたくない」とか、ある男の子がいじめられている感じで、「あいつの席には座りたくない」とか、「あいつに触りたくない」「あいつと話したくない」とか「同じ班になったらショックじゃあ。」とか、その人の机の上に物を置いたりしたら、「なんでこいつの机の上に置いとんな。気持ち悪い。やめてくれ。」みたいなことを言っている人がいるんですけど。そういうことをされている男の子とは、私すごく仲がいいんですけど、そんな風にいろいろ言われてて、辛くないのかなあって思ったりはするんです。本人が何も言わないので、話を聞いたりとかもなかなかせずつにいたんですけど、やっ

ぱり本人も気づかないふりとかをしてるだけであって、やっぱりどこかで辛い思いをしてるんじゃないかと思うんですよ。どんなことを言われたって、いつもにこにこしてる子なんですけど、それでもどこか辛い思いしてたりとか、悲しい思いをしてたりするんだと思うので、これからは、そのことについていろいろ話を聞いてあげたりとかその子の意見を聞いてあげたいと思います。

板野中学校 1年 1 「後悔」という米田さんの作文を聞いて、ボクには中3のお兄ちゃんがいます。いつも一緒におったら、うるさいって感じて、ご飯とか考え事をしながら食べていると「はよ食べ」とかうるさいんで、ときどき、まあほとんど毎日「あんなやつ死んだらいいのに」と思っていました。でも作文で「後悔先に立たず」というのを聞いて、ボクが目が腫れたときにずっと「いけるんか、いけるんか」って心配してくれよったし、うざいっていう気持ちは、ようわからんけど、兄ちゃんが死んだら悲しいって気持ちに変わると思うんで、死ねって思っどるけど死んだら悲しいので、兄弟はやっぱりなくしたくないなと思いました。



板野中学校 1年 c eさんがさっき言ったようにボクも小学生の4年生から6年生くらいまで、「その男の子が触ったやつには何かあるぞ」みたいな、「その男の子に触ったらうつる」みたいなことがありました。6年生

の時に学級会があって、その男の子は、いつもは聞こえてないふりをして本当は聞こえているという話がでてきて、その男の子は泣いてしまいました。言いたいことは、やった方も自分の心がしめつけられるような感じになってるんです。やってる方も意味がないことやし、やられている方も傷つくから、やっても意味がないと思いました。

上板中学校 2年 k 話したいことは「後悔」についてです。また自分の話ですけど、中国にいるころは、中学校のときは、「死ね、うざい、ばか、あほ」とかそういう言葉は、中国の中学校では日常になってるかな。普通に冗談っていう言葉になってる。冗談の言葉といえば、こんな言葉しかないっていう感じで。だから、中国ではよくこんなこと言うかな。私は今この作文を読んだら、ちょっとだけ悪いかなあとと思うけど、後悔ほどとはいかないかな。私はそんな感じですよ。ありがとうございました。

板野高校 1年 ac すごく前になるんですけど、午前中に話してくれた佐賀みことさんのことへの意見です。言いたかったんですけど言えませんでした。ダウン症のこと言ってたじゃないですか。実は私の弟もダウン症で、ねむの木療育園の話とかをして、すごい懐かしいなあと思ったんです。私もねむの木の方にずっと行ってたときがあって、弟のことで。見てたらほんとに弟ってすごいかわいいんですよ。今中学校1年生なんですけど、板野支援学校に通っていて、体は中学校1年生ぐらい、まあちょっと小さいぐらいで、なのに脳の発達では、3歳くらいなんです。ほんまに勉強とかもできんし、やっど小学校6年生や5年生でやっどひらがなが書けるぐらいになって、自分の名前とか書けるようになったんですよ。それで、先生も言ってたけど、そういう人たちはねむの木に行ったらいい

いんじゃないかって。やっぱりねむの木は、行ってもいいと思うんですけど、やっぱり小さい子がおるから「あっ、かわいいな」ですむかもしれないけど。私は板野支援学校に行つてほしいなと思いました。板野支援学校に行つたらいっぱい学べることもあるし、板野支援学校は小学校から高校までずっとなんですよ。それで、行ってくれたらほんまにダウン症の子はダウン症の子なりに何を学んでいるのかっていうのが一番分かるし、多分見てくれたら自分たちの考え方が少しでも変わるような気がするんで、そうやって障がい者の人を変な目で見るとじゃなくて、ちゃんと一人の人として見てください。以上です。

吉成 発言していいんですよ。多分ね、相当、大人我慢してるんですよ。高校生も。発言したいんだけど、中学生の会だからっていうんで、相当、我慢してるんですよ。だから、しゃべりだしたら多分それで終わっちゃうから。その覚悟してね、中学生のみなさんね。

いくつもいいたいことがある中で、例えばk aさんとs bさんのやり取りが非常におもしろかった。そういう言い方悪いんかもしれないけど、一見聞いてて、真逆な意見なのかなって思ったときもあったのよ、初めのうちは。だけど、話を聞いていくうちにだんだん会話かみ合ってきている感じがしてね。全然違う意見じゃないのかなっていう感覚すらもった。だからそこには大人は間に入ってなくて、自分たちが言ってるうちにいつの間にか合ってきたみたいな感覚があったんだと思うのよ。そういうのがいいなあってまず思った。

話、全然変わるんだけど、徳島の中学生もそうでないのかなあと思うんですけど、直接的に部落差別を見聞きした経験ってほぼないと思うのよ。ある子もおると思うんよ。けど、ほぼないと思うのよ。それは、香川の中学生一緒なのよ。徳島も香川も多分一緒そこは。

じゃあ香川に部落差別がないかというのと、私の大事な教え子も香川の方との恋愛の中で部落差別にあってます。でね、みんなの世代の中でまだ世代的に直接見聞きしてないというだけのことであって、潜在的には多分あるんじゃないのかなって思う、そこは。だからといって悲観する必要はまったくなくて、だから自分たちが今何ができるのか、何をどうしていこうっていうことを考えていけるし、そうしていった方がいいんじゃないかなっていうことが感想です。



それから、大人の頑張りかな。大人も頑張ってるんですよ。私に見える範囲ではね。頑張ってる人は頑張ってるのよ。考えてる人は考えてるんだと思うんですよ。だから例えば、今日の会にしても個人的なことだけど、t jさんのお父さんとかね、「頑張ってください。子どもよろしく」みたいな感じでくるわけよ。それとか、nさんにしてもそうなのよ。同じ世代の3人がここにもいるけど、今日話をしてもらった松浦優さんにしてもそうだけど、もう青年じゃなくなりかけてるよな、もう親世代ですよ。親世代も大人世代も考える人は考えて、頑張る人は頑張ってるっていうことも知ってほしいし、それを大人の責任にするんじゃないかって、中学生は中学生で、自分たちが20年経ったときに「俺らがなくしといてやるよ」みたいな。「40年目に来るよ」みたいな。15の子が35ですよ。14の子は34、13の子は33。その時に「40年目の時にじゃあ来てやるよ」って。「なくし

てやるよ20年で」って。それぐらいなつもりでぜひ共に頑張る仲間ですと居続けてもらえたらと思います。

こうやって私が言い出すと大人のみなさんで手が挙がる人も出てくるだろうし、中学生はものが言いつらくなるかもしれないけど、大人に負けずに中学生のみなさんもどんだんものを言ってください。負けませんから大人だ。以上です。



板野中学校 1年 l ボクは、kさんがさっき言った中国では日常的に「ばか」とか「しね」とか言っているかもしれないけど、それを中国で育ったというのものもあるかもしれないけど、それを日本で言ったら日本人はそういうのが習慣付いてないから、言われると心に深い傷が付きまします。それを言うことでいじめの対象になったりいろいろなるので、中国と日本は違うってということだけは知っていてほしいです。

板野中学校 3年 a d さっき吉成先生が「部落差別は、子どもの間では根付いてない」といったけど、私は、その例外の一人で、一度友達からこんな話をされたことがありました。中学校1年生の時に淡路で宿泊学習があって、その時に同じ班の子で2、3人と話をしているときにある子がぽつりと「Aちゃんって部落の子なんやって。」みたいな。「あっちの方のどこどこに住んどる子は、あそこらへん全体で部落で、こっちが部落で」とか、

その子がいっぱい教えてくれたんですよ。その時に私は、「ほんまにこんなこと言いよる子がおるんじゃ。」って思って、なんかちょっと悲しくなったり、辛くなったりしました。その後に同和問題の学習をして、その時にその子はまったく発言せんと、「あの時のことは言わんといてよ。」って言われたから、私も言えなかった。先生がこういう話があるっていうことを言っていて、聞いていてすごく冷や汗だらだらで、「こればれたら、ちょっとあれやな。」みたいになってて。私が何を言いたいかって言ったら、地域ごとに比べる？例えば「あそこは部落やけん格下」とか「ここは部落じゃないけんあの人達より上」とかじゃなくて、人間みんな同じやし、手あるし、足あるし、首あるし、顔あるし、髪の毛あるし、みんな一緒やから。障がいがある方とかもいるけど、同じ人間だから、そういう格付けはしてはいけないと私は思います。ありがとうございました。

応神中学校 3年 e 今一つ思ったことは、吉成先生が発言した後に、s bとかy hとか発表してくれる人がいてちょっと良かったなと思いました。さっき吉成先生が部落差別の話をしてくれて、部落差別は今も残ってるっていう話をしたと思うんですけど。部落差別はまだ一応残ってると思うんですよ。A町にも部落があって、その名残で学習会、今は中友っていうのがあります。中友も差別をうける対象みたいな感じで。祖母に聞いた話では、「なんで部落の人間だけ学校の先生にわざわざ来てもらって余分な勉強を教えてもらいよん」、「他の地区の人はみんな塾とか行かして勉強教えてもらったりとかしよるのに、ほれなのに何であそこの地域の子だけは中友とかいうんに行って、先生に何もなしに勉強教えてもらってるってしよるん」っていう風にまわりから思われとるって。他の地区からみたらそういう風に思うんかなあって思いま

した。以上です。

中山中学校 1年 ak 話は戻るけど、「いじめがない学校に」の中に、「私、その子ほんま嫌い。何でそんな理由で休むかわからんわ。」とかがあって、私も休んでいる人がいたら何でって思うこともあるけど、nさんの話を聞いて今まで本人に言ったこととかはなかったけど、思ってるだけでその人に伝わるんだなあと思いました。



上板中学校 2年 k さっきの板野中学校の1さんの話ですけど、中国と日本の違いはわかっていますので(笑)。それと、私はずっと疑問に思っていることがあります。私は日本のアニメが大好きです。それで、日本のアニメって学校生活のアニメ、案外多いですね。それで私はよく、そういうのを見るんですけど、たまにアニメの中にも出るんだなあ。「ばか」とか「あほ」とか「しね」とか。たまに出るんだなあ。そのところはちょっと疑問があるので答えれる人、あとで教えてください。ありがとうございました。

屋島中学校 3年 al さきほどの1さんに対してちょっと言いたいことがあります。日本と中国の何かで、ボクにはそれがちょっと差別に聞こえました。ボクは『人類はみな兄弟だ』と思ってるんで、まあ、そう思ってください。以上です。

板野高校 1年 ac いまさっき、alさんが言ってくれたこと、めっちゃええと思いますよ。私もそれ言いたかったんで、1さんに。ほんとに、中国と日本が違うって言うのはちょっと差別かなって思いました。あと、まったく全然違うんですけど、高田智華ちゃんが言っていたことで、友達ってほんまにいいなあって思うんが、今となりに座っているこの二人なんですけど、ほんまにこの二人に支えられて。友達ってほんまにいいと思うけん、何があってもやっぱり辛いときとかって友達が隣におってくれたりするから、友達ってほんまにいいと思うんで、何があっても友達は大切にしたいほうがいいかなって思いました。

板野中学校 1年 c 1さんに対して、ボクが知ってる中では、多分「しね」「ぼけ」「かす」「まねけ」は普通に聞こえてくるんですよ。クラスにおっても。何か走ってちょっかい出したら、「うざいわ。しね」とか普通に聞こえてくるから、あると思います。だから、中国と同じだと思います。

大麻中学校 3年 n 話変わるんですけど、質問で、一回友達に「人権の勉強する意味あるん？」って聞かれて、ボクは、「人権の勉強せんかったら、正しいことと間違ったことがわからない。」って答えました。そのときに思ったんですけど、この会に参加しているみんなだったら、どう答えますか。後で、こたえてください。

一般 ao 言うていいんですか。今の聞いた意見に触れる部分があるかもしれませんが、私がたまたま行った中学校で、人権活動にすごい力を入れていただいている中学校に行っただんですけど。その時まで私は、平気でクラスメイトのことをののしったり、平気で人のことをちょっかい出してみたり、悪口言うてみたり。それが悪いこととかもわからんまま

にやってしまったと思います。そのことに気付けたのが、当時行った中学校にあった人権を学べる教育のおかげだと思います。ほんで、中学校3年間送って、高校大学と行って、今私は、この近くの町で農業を14年間一生懸命取り組みながら生計を立てております。ほんで、少なくとも中学校で人権について学んでから、今日までずっと生活をしてきましたけど。悪いことしよる人に対しては、否定もしたりすることもあるかもしれませんが、少なくともほんまに思いやりの気持ちとか人を思いやることをベースに生きてこれた気がします。少なくともこれからもボクが生きとる間は、人のことを、ボク鳴門金時を作りよるんやけど、仕事しながらも「人間てなんだろう」とか哲学かもしれんけど、「絶対人の嫌がることはせんぞ」と、何か誓いがたてれたんよ。ボクは、ほんで今まで生きてきています。さっき人権について学ぶことってどうなんかとか、ボクも正直思ったことがあります。ほんで差別があることで、しんだい思い、やっぱり大人になっても生活をしようたら、何かアンテナを張り巡らしとったら、「あれ、違うぞー」とか、「何かあんまりいい心地せんぞー」とか思うこといっぱいあります。やっぱりボクは、いろいろ差別とかいじめとかどろどろしたもん、生活をしながら感じることもあるんで、世の中には差別とかいっぱいあると思います。ほなけど、差別とかがあることでしんだい思いするんは、受ける側ってずっと思いよったんやけど、実際さっきも大阪の方のお話聞いたり、みなさんのお話を今日こさせてもらって聞かせてもらう中で、差別があることでしんだい思いをしようたら、部落差別に関しても地区・地区外関係なく、あることでみんながしんどい思いをしよると思っています。する側される側は関係なく、みんなが何か知らんけどいろいろ差別してしまうことで、娘の結婚とかも祝福できなかったりとか、差別してしまうことで、受

ける側もしてしまう側もみんなが、ほんな矛盾したもののせいで制限を受けるとボクは思っています。ほなけん、ボクは、吉成先生とたまに会って話とかさせてもらったりとかするんやけど、吉成先生と出会わなかったら、こんなん考えんと生きとったんかなあとか。



尊敬する恩師がいっぱいおるんですけど、出会ってなかったらもっと別の生き方しとっただろうなあ正直思います。ほんで娘のこととかで学校にたまにひょかっと思って、お話を聞いたりすることがあるんです。大人はほんまに頑張ると思うんやけど。ボクが住んどるところでは、人権について保護者が集まって、せっかく学べる場があるのに、多分どうやって学んでいいかわからんってところがあって、ビデオ流して終わりとか。ほの時間を、ただ1時間与えてていただいとる時間をみんなが、町内のえらいさんが集まってきて、ほのままもったいないけど何かなあなあで過ごしてしまうというか。せっかく経費も使って、地域の経費も使って、時間も使ってみんなが集まれる場があるのに活用できてない現場に私は今住んでいます。ボクは今年からそういう場に行き出したんやけど、ほいう感じで10年とか知らん間に年月が流れとるんだらうとか、ほれはほれでその会にも歴史があるんだらうなあとか思いながら、もっといい会になったらいいのになあと思って、ずっと出席しよったんやけど、今日みなさんの意見とか、いろんな意見聞かさせてもらって、何かボク人のせいにしとった

など思ったんです。ほれできるんは、もしかしてボクなんかになって。何か重たい腰にぐっと活を入れていただいたと思って。ちょっと時間さいてもらって申し訳ないんやけど、誓いも兼ねて「いっちょ、やったろかー。」と思いました。今日は心すごい洗われました。ごっつうれしかったです。ありがとうございました。

国府中学校 3年 y 午後の部Iで、大阪の先生が話して下さったことで時間がきてしまって言えなかったので今言います。「娘はおらんようになったと思って過ごせ」みたいな言われたら、もし自分の結婚したい人を連れてきてほれを大人になってお父さんやお母さんに言われたら、今すごい母さんとか父さんのこと好きやけん、今までちゃんと育ててきてくれて、好きやった人にほんなにグサッとくると言われたら、私は多分気分が沈みすぎて、頭の中から「結婚するんじゃあ」みたいな燃えとる気持ちも何かショック過ぎてなくなってしまうかもしれないなあって思いました。あとn tさんが、何で友達に行くんって聞かれたときに、私は「行きたいけん行くんじゃ。」って言って、仲いい子しかそんなん聞かれないから、仲いい子には行きたいけん行くんよと言うて来ています。



土庄中学校 1年 ap さっきからずっと部落差別の話をしていて、私は実際にその部落差別のことをちゃんと知っているわけじゃあ

ないけど、小学校の時に部落差別とか差別の授業をしていて、部落差別で疑問に思ったことをそのまま言うんですけど。その地域内で部落をつくるけど、その境界線はどこにもないのに、その間に海があるわけでもないし、崖があるわけでもないし、なのに同じ地域内で部落をつくるのは、なんでかなあと思って。その地域内だから、その部落って言っているところも自分たちが住んでる所とつながってるから、その部落の所に住んでる人を差別するなら、つながってる自分たちを差別しているんじゃないかなと思っていて。これを小学校のときに学年の人たちに問いかけたんですけど、そのとき誰も答えてくれなかったもので、ここで誰か答えてくれる人がいるなら、答えてほしいなと思いました。

土庄中学校 3年 aq 私も質問なんですけど、学校の生徒評議会とか友達にも言われるんですけど、「人権って何？」って聞かれて、自分は美術の時間に先生が言ってくれたことしかわからなくて。そんなことしかわからんのに何で人権委員に入ったんかわからんので、誰か答えれる人答えてください。

藍住中学校 3年 q 3つ言いたいことがあって、さきにkさんのアニメに関するやつで、多分バトル系のアニメは暴言があるから好きじゃあないけど、キャラの臨場感をわかせるりとかするために制作側が使っているものだと思うんですけど、そういうところで差別の悪口が広がってしまうと思うし、悪口が名言になってしまったりとかネットで取り上げられてしまったりするんが、ボク的には残念です。あとkさんに質問があるんですけど、いけますか。中国で「しね」とか「あほ」とか「ぼけ」が冗談で会話で使われてて、というんですけど、そういう言葉を投げかけられて傷つく子やその言葉を注意する子と違って、やっぱいないんですか。

上板中学校 2年 k たまに使うのは、なんていうかいろんな話していて「こんなの、あんたあほでしょ」っていう感じで、まあそんな感じで言うてるから、あんまりそういうこと気にしてる人は中国にはないと思う。多分ないと思う。あるといえば、めっちゃ慈悲感が高い子かな。「あっ、これは私のこと言ってるかなあ。」という感じで。そういう慈悲感の高い子は可能性はあるけど、そんな子はあまりいないので、中国では普通に使っても怒る人あんまりいないという感じです。

藍住中学校 3年 q あと、nさんの「人権勉強をどうしてするか」と言われたらというやつなんですけど。ボクはいつも「自分の正義を磨くため」と友達に嘘をついて言っています。以上です。

上板中学校 教員 いやもう我慢の限界です。しゃべってくださいって言うので、言います。あの～、初めにあったことで言い合いになったとき、ボクね吉成先生はかみ合ってきたって言うたけど、ボク初めからね両方言ってること一緒やと思っと思ったんですよ。言ってることは、根は一緒やなと思って聞いてたんですよ。言葉のニュアンスが違うかなあと思ってたんですよ。何を言いたいかという、両方ともね、『この子が幸せになるために』って。kさんは何を言うたかという、「今幸せだったらいいでしょ」って。いやlさんは、「生まれたときに幸せ」。時間の流れ中で、生まれた瞬間のときには必ず幸せを願って名前をつけたはずなんです。それが流れて何年かたって13歳になったときに、まだ幸せを願ってる。だから過去のことなのか、今のことなのかっていう。その間ずっとね「幸せに子どもがなればいいなあ」ってことを思ってるってことは、一緒のことなので、一緒のことを言ってるんだけど、言葉が足りないから、かみ合っていないだけなんかなあ。それがかみ

合っていくようになるんは素晴らしいなあ



思いながら聞いてました。今もかみ合いがなかなかないところあるんですけど、えーと何が言いたいかという、**「しね」とか「ぼけ」**っていうのを合言葉みたいに呼びかけのように使っていることはないですか。「おまえ、あほやなあ」という軽い気持ちのニュアンスの「あほ」っていうのと、「あほ」っていう人をばかにしようとする言葉のニュアンスの問題で、k aさんが言っているのは軽いあいさつのコミュニケーションの「あほ」とか、「もうばかやなあ」っていうそういうニュアンスで。こちらで言うんは、「しね」「うざい」とかいう重いようなことを同系列でしゃべっているからしんどくなってるのかなあというふうに考えています。なんで私がマイクを持っているかという、ここの二人が「マイクを回せ。」っていうんで、回していいですか。

鳴門渦潮高校 3年 as 私は、大麻中学校出身で、3年前の実行委員長でした。俺らが実行委員長しよったときは、静けさはなかったんやけどめっちゃバトルのみたいな感じで、みんなが言い合いをしよった感じのイメージがあった。今日見させてもらいよったら、みんなが自分の気持ちも言い合うし、みんながフォローしながらいい感じにまとめていきよったし、それを見ながら「俺らにできることってなんだろうなあ」って考えたら、「何の武器があるんだろう」って思ったら、やっぱり若さんよな。一つ思うんは。若さ

があったら大人を動かせれるというか、今もそう思うんやけど、中学生が頑張るけん大人のみんがそれについていってあげようかってなっと思ふんで、今日だけが終わりじゃあなくて、これからも家に帰ってでも学校に帰ってでも、来てない人もおると思ふんで、その人たちに伝えて、もっともっと『人権の輪』って書いとるけど、『人権の輪』を広げれるようにこれからもしていってください。ありがとうございます。



板野高校 3年 at 意見発表の中で、友達のことを多かつたんで、友達のことを話させてもらおうかなあと思っています。とりあえず人間っておもしろいなあと思ふんですよ。そのときにそうやって思っただけでも、もし、回りの子、例えば、自分はその子のことを嫌いじゃない。でも自分の仲いい子が「あの子あんなんやけん、嫌いなんよ」って、その近くで聞きよつたら、だんだん自分も嫌いになってきてしまうっていうことが、自分の中であつた。言葉もそうだと思う。自分は思っただけでも、仲いい友達がそうやって言よつたら、否定できんという部分も自分の中にあると思う。言葉も一緒に、ただ自分はふざけよるだけでそうやって言葉言よつても、あかん言葉使いよつても自分も使いよるけん止めれん部分もある。しかもふざけながら使いよつたとして、部落差別とかも一緒だと思ふけど、自分がその立場に立っていないから、その現状を見てないからわからない。ふざけ

た言葉を使ったとして、もし、その子にふざけながら「しね」って言うたとして、もしその子が、冗談にとられんで、そのまま死んでしまつたら、その時にやっと「あー、使つたらあかん言葉だつたんやな」っていうんを実感できると思ふ。でもそういうんがない限り、ふざけて言葉を使わないっていうこと自体は難しいと思ふんですよ。私にとっては。だから、いじめがあつたとします。「自分はその子を助きたい」でも「助けられない」も一緒だと思ふ。だって、「助けてあげたいです」って言うだけだつたら何でもできる。「言葉を使わなくしていきたいです」っていうんは、なんぼでも言える。でも、それみんな今の現状でできていますか。できてないんですよ、私は。何が言いたいかって言つたら、口だけじゃあだめなんです。何年何十年かかつてもいいから、自分が大人になったときに「自分はこういう大人です。こんなゲスい言葉も使ってきました。でも今は使ってません。みんなにちゃんとお手本を示せるような大人になりました」っていうことができれば、もうそれで自分はいいと思ふ。今使つたらあかん言葉はようけあると思ふけど、口だけで言うんだったらほんな言葉使わんでいいと思ふ。「なくしていきたいです」とか、言わんでいいと



思ふんですよ。だから、今まで使ってきた言葉って簡単に直つたりしないんですよ。その時にぱっと消えたり、直つたりするわけでもなくて。だから、徐々にでもいいんで、そういう言葉を使う子たちが減っていくといい

など思いました。あと、さっき中国と日本のどうたらこうたらみたいなん言よったんやけど、うちは、これは差別やっつとらえる子もおったと思うけど、まあそれは価値観の違いやなと思ったし、中国には中国なりの生活の風習というか、日本には日本の風習があつて、それを差別つとらえるか、うちは、価値観の違いじゃないんかなつて思ったし、そんなところですよ。なんかまとまってなくてごめんなさい。

司会者 さっきから質問が何個かだつて、それに答えてくれる人いませんか。

一般 a u ごめん。ちょっと質問には答えられんけど、さっきのに繋がりたいだけなんって言わせてください。さっきボクの隣のzさんが話してくれて、こいつが言うたらボクも言わなあかんみたいなんがあるような、ないような感じで。さっきの話を聞いて、まあちょっと思つたんやけど、ボクもちょっと同じようなこと思いました。早い話、口先だけではほんまに済まされんことつて多いと思うんですよ。で、実際に俺も34になつて、20周年大会。俺ら最初からおつたんかなあ。多分ほれくらい、20年前だつたらほれくらいやと思うんやけど。ほんときたまつていた中学校で、a oや優や吉成先生や森口先生や三木先生とかおつたし。ほこで、学んだことつていうんが、今すごい自分の土台になつるとつていうか、結構のりで生きとつたりとかするんやけど。ふとした瞬間に自分の目の前に差別的な現場、俺だつたら部落差別。俺、同和出身やけん、結構ほんまに敏感なんかもしれんけど。まあ会社勤めじゃよね、ボクの歳になつたら。会社行つて、やっぱりほうい落書きを見たりする。『えた・ひにんは、これに触るな』みたいな。俺、ほん時に中途半端に勉強しとつたら多分卑屈になつておどおどして会社に行けてないと思う。で、ほん

時に何がよかつたかつていうたら、中学校の時に今のみんなと同じ年代の時に勉強した、今の人権教育つていうんを勉強して、俺ほんまにほれは絶対まずいなつて思った。ほういうんを目の前にして。俺ほんまに傷つきたくないし、傷つくやつ見たくもないし。社会人になつたら結構みんな、今隣におるけど結構ばらばらになるんよな。高校とかばらばらになるし。住んどる所とかも社会人になつたらばらばらになるんよな。なかなかふと隣に行つて話しようかつていうわけにはいかんやけど、ほん時に繋がつとつたんがやっぱりa oに電話1本入れたんですよ。やっぱりほん時に救われた感はずいあるし、繋がつた友達。ラインとかでグループにおつてとかいう友達じゃなくて、ほんまに心底繋がつとつれに言えたことつて、ごつつい救われて、今も会社頑張つてます。部落差別が見えにくくなつとつていうのも現状でもあるんかもしれんけど、たまたま先週会社の先輩と飲みに行つた時に、会社の先輩が、「自分の結婚した相手の弟が結婚するんやけど、ほの子の家を身内の周りの人が調べ、どこに住んどんかとか。ほんで同和つていうんがわかつた」と言つた。まあ、ほつからどうなつたかつていうところまで話はしてないんやけど、結局そついうんをするようなまだ世の中やと思う。



やっぱり出会うか出会うんかはわからんけど、自分がその時にいじめにしてもなんでもそうやと思うけど、目の当たりにしたときに、自分がその子とどう繋がれとんかつていうん

がすごい問題やと思うんですよ。隣におる子とちゃんと向き合って前向きに話ができよんかとか。ただ「一緒に頑張ろうな」とか作文にもほん時は助けられなかったけど、あとで背中さするとかってあったけど、やっぱりほん時にできんかった。「後悔先に立たず」とか言葉もあったけど、その時は後悔してもいいと思うんよ。ほの時の現状が理解できとるってことやけん。そこから自分であかんかった自分を受け入れて、「次はこうしよう」って、そこから行動に移していくことがすごい大事やと思うんで。ほんまに人と人との出会いって、そんな安いもんじゃあないんで。苦しんどうる人ってほんな軽い所で苦しんでないけん、その人に対して一緒に考えて一緒に泣いて、一緒に笑って、一緒に酒を飲むような人間関係でないと俺はあかんと思います。cとかもよう知つとるけんcが頑張つとるんだったら俺も頑張らなあかんなと思って言わせてもらいました。すみません。貴重な時間をありがとうございます。

司会者 質問に答えていただける方いませんか。

一般 a v すみません。最後に一言しゃべらせてください。今日は感想も含めて答えになるかならないかはわかりませんが、ちょっとだけ話させてください。今日のみなさんのお話聞いて、すごい熱を感じながら「中学生ってやっぱりすごいなあ。こういう会にはライブで絶対来ないといけないなあ。」ということに改めて感じました。私は人権教育と26年関わっています。同和地区の人間ではありませんが、学校の先生でもありません。行政職員でもありません。一人の看護師ですけども、なぜ私が26年人権教育と本気で関わってきたか。生活の一部になってきたかということ、やっぱり今日の会でもですけども、人権の会に行く立場とか年齢とかまったく

関係なくって、みんなの意見を個人の意見としていろいろ聞きながら、自分を振り返れるなって思います。そして、そのことをこんな



ことを勉強したよってことを他の人に伝えることで、仲間の輪が繋がっていきます。今日のテーマに『人と人 心をつなげ 広がれ！人権の輪』とあります。これはやっぱり、今日ここで学んだことを終わった後に「あー、終わった終わった。今日はいっぱいしゃべったなあ」で終わってしまうんじゃないかって、今日学んだことを近くの隣にでも家族の人にでも話してください。そのことで一人でも繋がれば、この心がつながり広がることになっていくと思います。人権の場合は、人のことを学ぶ場ではありません。人の意見を聞きながら自分を振り返って自分を育てていく学習の場です。生涯学習の場です。死ぬまで続けられる学習です。このことを続けていくと、いっぱい仲間の輪が広がっていきます。みなさんにそのような体験をこれからどんどん続けていってほしいなと思います。すみません、急に割り込みました。

応神中学校 3年 e さっきのa qさんとc nさんの質問に答えるつもりで発表させてもらいます。答えになるかどうかかわからないんですけど、人権学習って自分や自分の周りの人、自分の大切な人とか自分の身近な人とかを守るためにするものだと思うんです。自分の身の周りの人としての権利だとか、そういうものを尊重するためにするものだと思う

います。さっき発表してくれた先生の話とか聞いてたら、親から「死んだものと思う」とかって言われたって言ってたけど、それも家族になかったことにされるみたいな感じの感覚があつて嫌だし、それに森口先生の場合だったら昔自分の親に嫌悪感を抱いていたとあって話を聞いた事があって。だから、自分の家族ですら嫌いになつたりするってことあるじゃないですか。だから人権学習をすることによって一人ひとりの気持ちを考えて、尊重して、それでもって話を聞いて自分の意見も伝えて、そういうことができるようにするために人権学習はあるんだと思います。

藍住中学校 3年 q さっきの質問に対して、eさんの意見に付け加えるんだったら、最後に、友達を誘ってあげたら穏便にすむと思います。



藍住中学校 3年 u nさんの質問に答えるんですけど、何で人権学習をすることっていうんは、すごい考えよつたけど、なかなか答えが出てこんかつたんですけど。人権の、この場は特になんですけど、こうやって話すんが自分を自分で癒っしょるみたいな。ほれとか、みんなで人権の学習しよつたら、ごっついすっごい仲間ができるじゃないですか。ほなけん、ほんまの仲間みたいなんが自然とできていくし、自分のことも全部さらけだせるし、いろんなそんな感じなんで人権学習にきています。さっきyさんが「行きたいけんいくん

じゃ」って言よつたけど、それもそうで、うちも行きたいけん来てます。

屋島中学校 3年 aw 質問ちょっと答えられんですけど、ボクがこの会に参加して思ったことは、ほんとはボクは、この会に参加する気はなかつたんですけど、みなさんの意見は、大人よりすごいことを言ってるんじゃないかなと思って、ほんとに同級生なのかな、後輩なのかな、そんなくらいすごい高度なやりとりをしていてびっくりしました。悪口とかは、なくさなければならいんですけど、やっぱり口で言ってもほとんどの人が悪口を言わないではいられないと思うんです。なんで、もし悪口を言ってしまつて、言つた本人がその後どう思つて、言つてしまつた人に何て言うか、今後どうすればいいかを考えるかが大事なことだなと思つました。

上板中学校 2年 k 質問に答えます。2人の質問と一緒に答えてもいいですか。もし私なら、多分直接1回友達を連れてきたらいいと思います。他人が何を言つても、自分で体験した方が一番わかると思います。だつて一人ひとりの考えや気持ちは違うと思うけど、例えばしゃべりたい子はこんな会が好きだけど、ちょっとはずかしいと思う子は、あんまり来たくないかもしれないから、やっぱり実際に1回来てみたら良く分かると思います。ありがとうございました。

板野中学校 1年 l nさんの質問に答えて、何で来るのかというと、ボクは個人的には発表が好きだから、まあ来るし、あと友達に「何で来るん」って聞かれたら、説明難しいけん、kさんに似ていて、とりあえず1回来て、感じてくれた方がわかりやすいけん、誘つてまあ「来ない」って言うんだつたら、説明してあげます。

板野高校 1年 ac 人権って何って言う質問ですよ。人権って何って言われたら、「何なんだろう。」っていう深く考えこんだら難しいんですけど。人権っていうんは、生まれた時からもっているもんだから、何かそんな深くそんな難しく考えずに、考え込まないほうがいいような気がします。



松浦 はい。もう多分最後ちゃうかなあ。すいません、大人で。人権って深く考えんと、人が生きていくうえで様々な権利ということだと思います。まあ何でもご飯食べる権利でもいいし、いろんな権利をみんなが平等にもっていると思います。今日参加して、みんなに聞いてほしいことが3つあります。これは一昨年来た時もしゃべったかなあ。子ども連れて参加しとるときは、必ず言よることなんやけど、今、後ろにすみれちゃんっていうんやけど、ほれと男の子、生まれたての赤ちゃんがおるんやけど、そうくんっていうんやけど。この2人は差別意識やいうんはもってません。ほんまに今単にお腹がすいたら泣いたりとか、楽しかったら笑ったりとか、ただ本能的な感じで、今生きていきよると思うけど。ほれがやっぱり生きていく中で、間違っ意識の中で、みんなも今日話したように、朝も話したけど、「～やけん」とか理由をつけたりとかして、人のことを下に見てしまったりとか、「部落やけん」とか、いろいろな間違っ意識がどんどんと知らん間に刷り込まれていったりしてしまうっていうんが、ほんまに

悲しい現実なんやね。今日1日通してみても、ほんまにみんな、ちゃんと考えとんっていうことがわかりました。この子やが安心して住んでいける世の中にみんな頑張ってくれたら、ほういう世の中になっていくんちゃうかなと思いました。ほれが1つめで、2つめは、吉成先生が言った「平和なくして人権なし」という言葉をちょっと考えよったんやけど。戦争は絶対あかんってボクは思とる。なんでかっていうたら、きれいごととかでなしに、もし、攻められてきて、子どもの前に銃を突きつけられたら、ボクが銃を持っとたら、必ず打つと思います。子どもがやられるんだったら、ボクは打ってしまうと思います。こんだけ人権活動しよっても、あかんとわかつても、目の前に子どもが銃口突き付けられたら、絶対守るために打ってしまう。でも、ごっついボクも悩んだんよ。なんでこんな活動しよるのにこういうことになってしまうんだろうとかいうことを、ごっつい悩んだ時期があつたんやけど。でもほれこそが、戦争の怖さやと思うんよ。はっきりした答えっていうんは、自分の中にまだ見つかってないんやけど、言えることは、絶対に戦争をおこしたらあかんって思った。ほなけん、みんな勉強していく中で大人になっていく中で、やっぱり今の憲法守ってほしいし、戦争反対しよる政党とかがあつたりして、選挙権とか今若い子もてるような感じになってきとるでえな。ほんまとき、1票でもいいけん、そういうところに入れていくことが平和につながって、みんな安心して生きていけるんじゃないかなって思います。戦争になって行くんは、ボクや若い世代とか、みんなの世代が必ず行かされるんやけん、ほれをわかっといってください。3つめ。今日仲間とか友達とかいう話いろいろ出てきたんやけど、今日ほんまに同級生のzとpが、お昼から来てくれて、なんかのりで来ちゃったやいうことを言よったんやけど、なんか久々にこのメンバーって揃

うんよな。高1とかで一緒だったかなあくらいの。ほれ以降は揃ってないんちゃうかなあっていう感じなんよ。各々は、こういう場に出てきたりして、発表したり意見いうたりしよと思うんやけど、今日こうやって3人揃ったんは、ほんまに久々です。何ていうんかなあ。うまいこと言えんのやけど、照れるけど、ものすごく安心できたんよな、何でか。2人ともほんまにいろんな部落差別乗り越えて、頑張ってきたるんやけど、やっぱりそういう体験とか聞いて、ほんまにしんどいことを語り合ってきたということが、何かこう安心できる関係なんかなって思います。心強いし、何でも多分、真剣に熱く人権のこととかになったら、ほんまに語り合える仲間と思うんです。やっぱりほれも昔、20年前にした中学生集会だったりとか、学校でしよる人権活動だったりとか、そういうんの積み重ねが今の関係に繋がると思うんです。これを吉成先生が言よったように、40年後とか、40周年とかにでも、こん中の誰かが「私行きます。」って「私言うてやりますよ。」ぐらいの。今日ボクはちょっと前に出とったけど、煮え切らんかっていい意味の反省の1つとしてね、もつとるんやけど。ほういう存在にどんどんっていけたらと思います。40周年だったら、ボクら55やけん、もうほんまに多分来ないと思うけど、ほれくらいまでめざして、差別やいじめがなくなるまで、みんなで一緒に力を合わせてこれからも頑張っていきましょう。長々とすみません。

司会者 まだまだ発表はあると思いますが、このあたりで全体会午後の部を終了したいと思います。みなさん、ご協力ありがとうございました。有意義な話し合いができたと思います。今日の話し合いをきっかけに人権問題をさらに深く考え、各学校に持ち帰ってください。

それでは、全体会午後の部を閉じることに

します。ありがとうございました。それではこのあと引き続いて、閉会行事にうつらせていただきたいと思いますので、準備ができるまでの間、しばらくお待ちください。

